

Q25 保護者との連携をどのように進めたらよいでしょうか。



特別支援学級担任

自立活動の指導は、保護者との連携が必要なのでしょうか。



通級指導教室担当

日常的な情報交換は、在籍学級の担任がしている、直接、保護者と話す機会が少ないです…。



特別支援学級担任

保護者とどんなことで連携を取ったらよいのか、よく分かりません。

A 実態把握の際に保護者から情報収集をしたり、目標・内容の設定、評価を共に行ったり、日常的に情報交換をしたりして連携を図り、学校と家庭の両輪で指導を進めます。

自立活動は、児童生徒の学習上及び生活上の困難を改善・克服する指導ですから、学校生活場面のみならず、**家庭生活場面についても、実態把握を行い、目標・内容の設定、評価等、密に連携を図り、学校と家庭の両輪で指導を進める**ことが肝要です。

その際、「**分かりました。焦らず一緒に対応を考えていきましょう。**」という「**傾聴・共感・受容**」の姿勢を示すことが、精神的な支えになります。また、児童生徒の指導について信頼や安心感が得られることで、保護者は悩みを語りやすくなり、願いや思いが整理されていきます。

以下の場面や方法で、家庭での様子や生育歴、医療に関する情報、福祉施設での様子等の情報を収集したり、学校での様子を伝えたりして、実態把握や目標・内容の設定、評価、情報交換等、連携を図ることが大切です。

- 送迎時の会話(情報交換)
- 連絡帳
- 年度始めや年度末等の個別の教育支援計画、個別の指導計画に関するアンケート
- 個別面談で、個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して
- 家庭訪問
- 授業参観や学級懇談会
- ケース会議(支援会議)で個別の教育支援計画を活用して



通級指導教室において、連絡帳を在籍学級のもの  
と兼ねて、保護者、在籍学級担任、通級担当の三者  
で共有したり、個別懇談に在籍学級担任も同席し  
たりするなど、連携方法を工夫している事例があり  
ました。(令和4年度小・中学校通級指導教室にお  
ける指導の実態と課題に関する調査研究より)